

此の頃の子ども

附屬幼稚園

船田ふさ

或る日のお晝

「S子ちやん駄目ぢやないか、御飯を残しちゃ。」

「お米は大切なんだよ、きれいに食べなくちやいけな
いよ。」

「さうよ、勿體ないわ。」

等ミグループのお友達にははれて、躍起になつて頂いて
ゐるS子ちやん。ぼろ／＼の鯨の子がまじつて如何にも食
べにくさうだつたが遂々綺麗に頂いてしまつた。

子供の大きな楽しみであるお辨當に於て、良い習慣をつ
ける事は最も適當な又大切な事である事聞いてゐるが、勿
體ない大切にしないではいけなさいいふ感じが子供なりに
強くなつて來てゐる今はさうした習慣がわりに容易につけ
られるのではないかと思ふ。ものゝ足りない、さいふ事は幼
稚園の生活にもすぐびやく。たさへば新しい晝用紙でさ思

つても先づ／＼さ出来るだけ古葉書を利用するさいふこ
頃。かうした物資の乏しさは或ひは童心を暗くしこせ／＼
ました子にしてしまふものかも知れない、併し扱ひ方によ
つては、ものを大切にする習慣を養成する上に極めて好都
合な事であると思ふ。

或る日のお晝

「先生、僕のお庭の靴ね、小さくなつちやつたからお母
さんが買はうさしたけき仲々なかつたんだよ。それでね昨
日終點(天塚驛の)まで行つてやつさあつたんだよ。」さ如何
にも安心した様な顔つきのおさん。かうした事がきつかけ
になつて、ものゝ足りない話、代用品の話に花が咲く。

「石炭がないんだつて、僕の家お風呂が仲々わかないん
だよ。」さ大人の様なこさをいふTさん。

「僕の皮靴代用品だよ。」さYさん。

「私のマスクのガーゼね代用品よ、綿が口について氣持が
悪いわよ。」さS子ちやん。

その他炭の話、水の話、子供も自分達の身に直接關係す
るのでやはり相當に關心を持つてゐる。

あれも勿體ない、此も勿體ないでは折角の子さもの要求
を満してやれず、やがてはその心の發達を阻止してしまひ
はせぬかさ氣にかゝる事もあるが、今の私その爲に心配す
る様な事は起つてゐない。子さもの持ち物等大ていの事は

我慢し得るが運動靴のない事は困つた事であると思ふ。併し最近の新聞には遠からず大量市場に現はれるといふ事故今後は少し良いかも知れぬが、小さい靴の後ろにはみ出てる、足、足をみるこのびるものゝ遅しき、力強さを強く感ずると共に、早く足にあつた靴をはかせてまびまわらせたいと思ふ思はされる。

二

晴天つゞきの或る日の午後、やゝくづれかけた空を見上げて、

「曇つて来たわね、雨が降るかしら。」といふ。

「うん雨が降るさい。」異口同音にいふ。一寸意外に思つて、「さうして」を聞く、「だつて水道のお水がなくなるもの」さか「電氣は水でおすんだよ、だから降らない」困るぢやないか「さか」雨が降るさ私のおのさか治るつて「等相當に雨には關心を持つてゐる。」

やがて待望の雨が降つた朝、

「先生よかつたわね。」ささもく、安心した様な目つきで話かける子

「雨降つてるよ。」と嘯きに来る子、何さなく子ぎもの心にもうるほひさ落つきが生じた様に思はれた。そして一日しつくりさ氣持よく遊べた様に思ふ。

それにしては何さ雪の少かつた事。大雪小雪さ張り切つ

てうたひ、遊戯はしたが實際の餘りにも貧弱だつたのに子ささも私達も拍子抜けがした様に感じた事だつた。

三

この二三日の暖かな日が續く。

今まで室内遊びが多くて思ふ様に精力を發散出来なかつた子供達の喜びは天をもつく程である。お庭への扉をあけるさわつ！さ外に突貫する。力が溢れてしようがないさいつた形だ。私はこの子供達の元氣な姿に早くも萌え出づる春の訪れを知つて、世にも幸福に感ずるものである。

「カミサマノオハナシ」(其二)

藤田美津子著

日々の繁忙の中にあつて、古事記を讀まれるといふことさへ敬服にたへないのに、そのお話を實際に振り易く子供に聞かせられたといふことはいふよ、敬服に當ります。本書は子供に聞かせられたそのまゝを一冊にまとめられたもの。

時恰も光輝ある年を迎へ、本書のもつ意義もまた益々深くなつたと云ふべきである。同志の心血をそゝがれた本書を、この道の者一人残らず味讀してその努力のあとを偲び、合せて子供へも敷衍して、我が國柄を理解せしめる好資料とせられんことを切にお奨めする。

尙ほ同じ著者により「カミサマノオハナシ」(ソノ二)も近く刊行せられよし。(記者)

定價 貳圓六拾錢

發行所 赤橋幼稚園母の會
大阪市住吉區相生通二丁目三二